

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	平成27年7月29日（水）14時00分～16時00分	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 4階 会議室	
議長（委員長・会長）氏 名	林 昌彦	
委 員 氏 名	（出席者） 林昌彦、三渡圭介、岡本一也、長田博、春名千代、田口すみ子、山田寛、古根川淳也、柏野茂樹	（欠席者） 玉田恵美
事 務 氏 名	宍粟市：西山参事 企画総務部：中村部長、世良次長 地域創生課：西川副課長、前平主事	
傍 聴 人 数	3名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 1．開会 2．委員長あいさつ 3．説明 ・宍粟市「人口ビジョン」と「地域創生総合戦略」の全体像について ・今後の審議及びスケジュールについて（第3回戦略委員会～答申まで） ・戦略委員からの提案依頼について（提案期限 8月17日（月）） ・重点戦略の審議について 戦略1【住む】集落・地域の活性化と宍粟市への移住支援について 審議項目 移住希望者の支援と空き家の利用促進について 地域づくり団体等の育成・連携について 戦略2【働く】雇用の創出と就職支援 審議項目 雇用の創出～地域の特性を生かした産業の推進について 4．質疑 5．その他 第4回宍粟市地域創生戦略委員会の開催日 6．閉会	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認 （記名押印）	（委員長等） _____	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1. 開会
西山参事	<p>第2回の戦略委員会から2か月以上経過しました。本日は、具体的に大きな4つの柱について検討いただきたいと思います。この2か月の間の宍粟市の動きについて情報提供をさせていただきます。</p> <p>宍粟市は90%以上が森林のまちですが、特に森林に関する施設がたくさんあります。山崎高等学校の中には林業を専門とした学科もあり、兵庫木材センター、山崎木材市場や森林組合等もあり、また25の事業体に活躍いただいています。木材本来の役割、森の果たす複合的な役割が非常に大きなものとなっています。</p> <p>今回、地域創生の中で、改めて「森のまち宍粟」を生み出したいと思っており、宍粟市に林業の専門的な学校を誘致できないかと要望・提案しています。決定はしておりませんが、県の協力を得て、何とか宍粟キャンパスを誘致していきたいと考えていますので、これも戦略の中の1つとしてご検討いただければと思います。しかし、学校教育法の中にある大学に設置するのか、それとも専修学校に設置するのかについては、まったく決まっています。</p> <p>他の自治体においてもこのような学校誘致の意向がありますが、何としても宍粟市に誘致したいと思いますので、皆様とともに協議していければと考えています。本日もよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>2. 委員長あいさつ</p> <p>本日は暑い中をお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>先ほどお話しがありましたように、本日から戦略の中身に入ります。委員の皆様にもさまざまなご提案をいただくことが必要になって参りますが、後ほど説明があらうかと思えます。</p> <p>では、早速協議に入りたいと思います。説明は4点ありますが、4点目が重点戦略の審議になりますので、まず3点の説明をお願いします。</p>
委員長	<p>3. 説明 (事務局より資料を基に説明)</p>
委員長	ただ今の説明について、ご意見等があればお願いします。
委員長	第3回と第4回の審議会でも4つの戦略について協議していただきますが、本日の会議で2つの戦略について結論を出すことにはならないと思います。

	<p>委員会の提案について、3つ目と4つ目の戦略は資料をいただいてからになるうかと思えます。</p> <p>役所内、または議会での議論の内容について、より早く伝えていただければ提案しやすいと思えます。この審議会でもスケジュールに合わせて進めますので、事務局側もご協力をお願いしたいと思えます。</p>
委員長	<p>それでは、戦略1の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>戦略1【住む】集落・地域の活性化と宍粟市への移住支援について (事務局より資料を基に説明)</p> <p>4. 質疑</p>
委員長	<p>春名委員より、NPO法人活動の資料について説明をお願いします。</p>
委員	<p>資料を基に説明</p>
委員長	<p>交流人口を増やすところからどのように定住人口へつないでいくのかという1つの戦略について、実際の事例を紹介していただきました。</p> <p>これまでの説明について、ご意見等あればお願いします。</p>
委員	<p>空き家バンクの状況について、さまざまなニーズの人がいる中でどこまで把握していますか。</p>
事務局	<p>登録の際には、詳細な情報提供していただいています。</p>
委員	<p>問い合わせがあれば答えていただけますか。</p>
事務局	<p>はい、そのように対応しています。最終的に消費者が売買する際の契約については、兵庫県の建物取引協会の西播磨支部に依頼しています。</p>
委員	<p>西播磨県民局でもNPOに委託して空き家バンクを運営しています。しかし、各市町によってやり方がまちまちで、不動産屋から空き家情報をもらって掲載している市町もあれば、私達の場合のようにNPOに委託し、間取り等を調査していただいて掲載しているところもあります。もし登録依頼があれば家を現地確認していますが、後の契約や売買については、個人でしていただくか専門の不動産事業者をお願いしています。</p>

	<p>しかし最近、契約の段階で不動産事業者との金額の相違からトラブルがありました。空き家バンクは、不動産事業者との関わり方が非常に難しいという問題があります。</p> <p>若い世帯の方は、子どもと自然の中でのびのび暮らしたいのですが、できれば低家賃で借りたいと希望されます。田舎では家賃を気にされない方が多い中、不動産事業者はそのようなわけにはいかずコストが高くなる場合があります。</p> <p>そのような中で、宍粟市は非常に積極的にやっていただいていますので、これからもうまく連携して情報を集めていただければと思います。</p>
委員	<p>農地については、今のところ取り決めが特にありません。空き家には農地がついていることが多いのですが、農地を一緒に取得しようとするれば、農地法の関係で30アール以上でなければ取得できません。空き家に小さな農地があった場合、その部分だけ他人の土地となり余ってしまうことがあります。</p> <p>農地法の特例で定められているように、宍粟市でも数か所の集落で10アールに引き下げていると思いますが、思い切って1アールまで下げるぐらいのことをすれば農地の取引がスムーズになりますので、ぜひ検討していただければと思います。</p>
委員	<p>空き家バスツアーをしています。都会から移住して畑をしたいと言われる人でも、田んぼが20アールもあるような土地になるとなかなか購入されません。</p> <p>先ほど事務局からのご説明で津和野市の例がありましたが、新築を引き渡すよりは、古民家をリフォームして住みたいと言われる人の方が多いです。</p>
委員	<p>寄付の申し入れは何件ほどありますか。</p>
事務局	<p>年間にすれば、財産価値があるものとなないものを含めても件数は少ない状況です。</p>
委員	<p>市が引き受けずに斡旋という形にしてはどうですか。</p>
委員	<p>それはよいと思います。皆、低額で住みたいと思っています。行政は、移住者の側に立って考えてほしいと思います。</p>
委員	<p>例えば、0円で空き家バンクに載せるのは難しいですか。</p>
事務局	<p>所有者が0円での登録をご理解いただければ可能です。</p>

委員	買う側も見極めが難しいですね。
委員長	経験上のノウハウを知らなければ、ネックになる部分がどこかわかりません。具体的にネックになっている部分を解決しなければ促進できないと思います。
委員	ネックであるといわれていますが、実際に農業をやりたい人もいます。そのような人に情報が届いていないと思います。
委員	実際に、波賀で改修した家に移住して敷地内で農業をされている人がいます。
委員	空き家バンクには、付属する田んぼや畑について載せていますか。
事務局	付属物の情報として、田んぼが付いていることは載せていますが、詳細は載せていません。
委員	空き家バンクそのものを知らない人がたくさんいると思います。もっと広く知ってもらうために、アピールの仕方を考えるべきだと思います。
委員	インターネットだけではなく、新聞の広告に入れるなどすればどうですか。
委員	空き家バンクの登録依頼の広告を、市報に折り込ませてもらったことがあります。売る側については、ホームページだけではなく「田舎暮らしの本」にも掲載しています。
副委員長	<p>この国で4,000万所帯がある中で、住宅の数は4,850万戸あるといわれています。そのうち800万戸が空き家です。今後の推移をみると、住宅の着工戸数が平成初期は160万戸ありましたが、年々減り続けています。平成26年度は盛り返して85万戸になりました。これはご存知の通り、消費税増税前の駆け込みが要因です。最近では、約70万戸ぐらいといわれていますが、平成30年には全国の新築着工戸数は43万戸ほどになるというデータが出ています。そうなるとう、空き家はもっと増加します。</p> <p>昨日のニュースで、神戸のニュータウンと称して30年ほど前に建てた分譲住宅の住民が高齢化を迎え、現在は駅に近いマンションに移住しておられると伝えていました。高齢者が退去された住宅は、第1次取得者と呼ばれる20代後半から30代前半の夫婦が、リノベーションをして住んでいます。リノベーションで1,500万円から2000万円位かけて、土地と建物込みで3,000万円ほどの市場</p>

	<p>だそうです。</p> <p>宍粟市では、土地が1,000万円に1,500万円ほどの住宅を建てるのが主流です。多くの場合、千種、波賀、一宮の方が山崎に移住するという需要の中で分譲が進んでいます。しかし、いよいよ頭打ちであるとみています。</p> <p>少数派ではありますが、若い人の中には50坪の土地に30坪の家を建てるのではなく、もっと豊かに暮らしたいという人がいます。少し不便ですが、山崎の中の蔦沢の中間地であったり、城下の奥地や上比地、神野の三谷などで、200坪～300坪ほどの土地付きで畑もできるような空き家を500万から600万円で購入しリノベーションをすると、空間的に豊かな生活ができるということも事実です。そのあたりを十分に踏まえていただき、これからこの地域の空き家をどうしていくのかについての参考にいただければと思います。</p> <p>もうひとつ大切なことは、少子化によって、生まれたときから父親側と母親側の2つの家があることです。出生率1.3人や1.4人であれば、必ずそのようなことになります。これから、住宅の空き家化はもっと進んでいくのではないかと感じます。</p> <p>また、都会から宍粟市へ移住してもらう場合、生活習慣や近所付き合いの違いはもちろんのこと、生活基盤をどうするのかということが重要になります。私たちは、移住者にどうやって生活していただくかということについても議論をしていかなければならないと思います。枝葉の議論ばかりではなく、幹になる部分を議論されるべきではないかという気がします。</p>
委員長	<p>さきほど、NPO法人の奥播磨夢倶楽部についてご説明いただきましたが、会員数を増やす上でネックになっていることは何ですか。</p>
委員	<p>NPOの活動だけではやっていけず、他に仕事を持つ会員がかかわっています。会員11名のうち10名が男性で職を持っており、時間の制約があるので、夜間や土日祝の活動が主になります。若い世代の人にも入っていただきたいのですが、生活がかかっているので辞めたくないのに辞められた人もいます。</p>
委員長	<p>NPO活動をする上での悩みや問題について交流する機会がありましたか。</p>
委員	<p>姫路市のNPOに呼んでいただいて、宍粟市の実状や問題点、イベント等について交流しています。何かあれば援助していただいています。</p>
委員長	<p>行政が直接支援するのか、支援する仕組みを民間でつくるのか、いずれにしても、NPOを支援するNPOなどが必要だと思います。</p>

委員	<p>宍粟市のNPO自体に連携がまったくありません。福祉関係のNPOが多く、私どものようにまちづくりに特化しているNPOはないので、他地域のNPOと連携しています。ふるさと神野を考える会や谷村おこしの会などの団体、やまさきまち歩きガイドの方々と連携しながら進めていますが、いずれは宍粟市のNPOとも連携できればと思います。</p>
委員長	<p>それでは、戦略2に移ります。事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>戦略2【働く】雇用の創出と就職支援 (事務局より資料を基に説明)</p>
副委員長	<p>いちばん幹になる議題であると思います。宍粟市をどのようなまちにするかというシンボルやブランドを全面に押し出さなければいけません。近隣でいえば、赤穂市は「赤穂浪士のまち」「塩のまち」というイメージがあります。また現在成り立っているかは別にして、相生市は「造船のまち」というイメージがあります。そうめんの7割は宍粟市でつくっているにもかかわらず、たつの市は醤油とそうめんが有名で、重工業のまちとしても知られています。近年では、朝来市の竹田城が毎日のようにマスコミに取り上げられています。養父市は「農業のまち」として、農業分野の国家戦略特区に選ばれました。山陰の各町は、香住のカニや城崎は温泉というように強いイメージやブランドがあります。</p> <p>いま、宍粟市にイメージやブランドがなければ、つくらなければいけないと思います。先ほど説明のありましたように、神戸新聞で5回のシリーズとして取り上げていただいています。以前、宍粟市には山崎杉というブランドがあり、赤西と音水の自然林として営林署が出していました。</p> <p>資料にもあるように森林面積が一番大きいですが、手入れをしないので経済的にもよい木ができていません。しかし、他に宍粟市でアピールできるものがなかなかないので、「森林」という1つのキーワードを持って経済面及び観光面、さまざまなジャンルに至るまでの方向性を決めなければならないと思います。</p> <p>森林セラピーについても、森林の取組の1つになります。先々月に、何人かの有志で長野県上松町に行きました。こちらで、営林署が主体となって木曾檜を出していました。総延べ数100kmに渡るトロッコのレールが引いてあったそうです。現在も一部が残っており、トロッコで観光客を運んで森林セラピーをしています。人口2,000人のまちでも、森林セラピーとトロッコでうまく相乗効果がでるような経済基盤をつくっていました。</p> <p>宍粟市もぜひ見習うべきであると感じました。誰も通っていないサイクリングロードを復活させるのは非常に重要なことで、他の観光資源とのマッチングがうまくできるのではないかと期待しています。また、赤西や音水と森林セラ</p>

	<p>ピーを併せた観光の基盤になるような施設をつくるべきだと思います。あくまでも森林を幹とし、観光を枝葉の部分として取り組んでいただければと思います。森林セラピーだけでは観光客は来てくれません。</p> <p>兵庫県立大学に林業学部ができればもっとよいと思います。</p>
委員	<p>岡山県西粟倉村では「森の学校」を設立して、そこで地元の雇用を創出し、30人以上が就労しています。若者が多く移住し、例えば住宅に用いる床など独自の商品をつくっています。ぜひ一度視察に行かれたら、身近に考えられるよいアイデアがたくさん見つかると思います。「あわくら温泉 元湯」も若者の力で復活し、観光資源になっています。宍粟市と同じように林業が盛んで、学ぶべきところがたくさんあると思います。</p>
委員	<p>宍粟市には「エコの会」というものがあり、そこで智頭町の町長をお招きして講演会をされました。智頭町では「森のようちえん」を設立されています。そこは園舎がなく、朝になると市役所前に集合して森を拠点に活動しています。先生や大人は口出しすることなく、子どもたちの力だけで遊びをつくり出します。自然の中で体験することによって自信がつき、身体も丈夫になります。また、智頭町では学校でもそのような取組をされています。</p> <p>宍粟市の学童保育では19時まで預かってほしいという要望がありますが、子どもの立場からすれば、学校の敷地内にある建物の中にずっといることになります。智頭町と比較すると、天と地の差であると感じました。</p> <p>また、智頭町では普通の民家で民泊をされています。民家で提供するの、朝夕の食事と布団とお風呂のみです。現在では、40戸ほどの民家がやっております。私は、智頭町の動きには無駄がないと感じました。</p> <p>先ほど大学についてお話がありましたが、子どもたちには農業や林業の楽しさと正しい知識を伝えるような教育をしていただきたいと思います。</p> <p>宍粟市内では、太陽光パネルが相当増えています。これからも安心・安全なエネルギーのまちということを出してほしいです。</p>
委員	<p>宍粟市にとってそうめんに関する産業は大きいと思います。市内でも5,000人ほどが従事されていると聞きます。製麺業は、特に山間部においての雇用に強力な武器になると思いますが、行政からの支援はないのですか。</p>
委員	<p>それは、現在の流れに逆らうことなので難しいと思います。昔は軒先でそうめんを乾燥させていましたが、今はゴミや虫が付くと大きなクレームになります。社会のニーズが手延べではないものに移行しており、これから手延べそうめんも厳しい時代がくると思います。</p>

副委員長	<p>そうめんの生産拠点が宍粟市であるのは間違いなく、300 ほどの業態があります。当初は軒先で乾燥させていましたが、衛生面を考慮して工場化するように言われています。作ったものをそこで売らなくても手間請けだけしているのが、宍粟市のそうめん産業のあり方です。このことも基幹産業になりにくい大きな要因であるように感じます。</p>
委員	<p>揖保乃糸は非常に努力されています。他のエリアのそうめんは壊滅しています。ただ、世の中の流れが速いので、今のビジネスモデルがずっと続くかといえば、それは別の問題があります。家庭でも、暑いときにははじめからゆがいたそうめんを食べる方がよいという風潮があります。</p> <p>サイクリングは、このエリアにとって非常によいアイデアだと思います。以前、音水などの観光施設にレンタルの電動サイクルを置かれてはいかがですかと市長に提案したことがあります。観光のターゲットはシルバー世代になりますので、そのような拠点を設けるのは有効であると思います。</p> <p>ヨーロッパをみても、文化が成熟していくと体験するのがいちばん楽しみであり、そのような点ではサイクリングは楽しいレジャーになると思います。宍粟市まで車でお越しいただいて、市内をレンタサイクルで走っていただきながら自然の中で過ごすという形をとっていただければと思います。</p>
委員	<p>姫鳥線が新しく開通し、国道 29 号線の交通量が減ったそうです。それならば、国道 29 号線を利用してサイクリングや駅伝の大会を実施し、集客や周辺地域の活性化につなげてはどうかというアイデアを聞きましたので、参考にさせていただければと思います。</p>
委員	<p>以前、カヌー大会で 3,000 人集めたことがあります。国際大会になると、400 人ほどの選手が 1 週間近く滞在するそうで、宿泊やお弁当など経済的にも活性化されます。</p>
委員	<p>南光町にも大きなキャンプ施設がありますが、宍粟市には大きなキャンプ場のイメージがありません。森林に特化していくのであれば、アウトドア施設が必要だと思います。</p>
委員	<p>統廃合されて廃校になった校舎にキャンプ場をつくって、校舎の再利用も兼ねて観光資源にし、観光客を呼び込んでそこから移住につなげていけばよいと思います。</p>

委員	千種も、廃校になった小学校の大きな校舎が空いています。そこを宿泊施設にしてはどうですか。近くには千種高原ゆり園があり、クリン草の森の中は非常に癒される空間です。そこに、一人乗りの乗り物を置いたりトロッコを設置して観光客を呼び込めば、クリン草もゆり園も認知度が上がると思います。
委員	木質バイオマス発電が話題になっていますが、宍粟市の取組状況はどうですか。
事務局	<p>バイオマスの活用に関しては、宍粟市は早くから研究をしています。木質ペレットについては、平成 18 年から学校にストーブを順次入れて活用しています。他に温泉のボイラーが 2 か所、千種のプールをつくる際にも活用します。もともとゴミになっていたおが粉を利用する発想でしたが、現在は稀少性の高い有価物となってきています。</p> <p>バイオマス発電は赤穂市と新しく朝来市にできますが、その燃料用として今までゴミになっていたものが 1 トン 6,700 円で売れるとなると、燃料が足らなくなる状態のようです。宍粟市は、今まで山に捨てられていたものや B 材、C 材を燃料として供給する側にいます。そのため、市内に新しい発電施設を設置する予定はありません。</p>
副委員長	<p>兵庫県で、赤穂の日本海水と生野の連合体で発電をするときに、35 万 m³の木材を必要とします。平成 26 年度の兵庫県の原木の生産量は 25 万 m³しかありません。この数字は、私たちの住宅に使用している木材をすべて燃やしても足りません。</p> <p>このような仕組みに大きな問題があります。B 材の一部であるベニヤを製作している事業者も材料不足で困っています。B 材と A 材の一部を利用している私たちにも影響を及ぼします。</p>
委員長	持続可能な仕組みをつくっていかねばなりません。
委員長	では、5 . その他 の次回の予定について、説明をお願いします。
事務局	<p>5 . その他</p> <p>第 4 回宍粟市地域創生戦略委員会の開催日 (9 月 2 日 (水) 午後 2 時に決定)</p>
副委員長	<p>6 . 閉会</p> <p>本日は長時間にわたる慎重審議、ありがとうございました。どの市町村でも</p>

事務局	<p>このテーマで審議しています。1つのことをするにあたっては、どうしても光と影がでてきます。やはり、宍粟市のもつ特性をどう活かすか、またそれをどう発展させていくかということが、私たちに課せられた大きな任務であると感じています。</p> <p>今後とも、前向きなご意見を賜りますようお願い申し上げまして、閉会のあいさつとさせていただきます。</p> <p>本日お配りしている資料と併せまして、タウンミーティングのチラシを配布させていただきます。地域創生のための市民に向けてのタウンミーティングということで、明日7月30日から市内で4カ所開催する予定です。お時間がございましたら、ぜひご出席いただきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	---